

●アーバンリゾートフェア神戸'93記念特別展

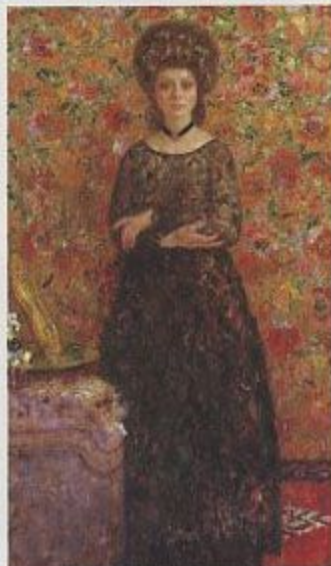
カンヴァスの中の女たち

—洋画100年にみる女性美の展開—

'93 9月23日(祝) ▶ 11月7日(日)

開館時間/午前10時から午後5時まで(入館は4時30分まで) 休館日/月曜日・10月12日(祝)
主催/神戸市立小磯記念美術館・神戸新聞社

浅井 忠	梅原龍三郎	鹿子木孟郎
川口 軌外	国吉 康雄	熊谷 守一
黒田 清輝	小出 楯重	小磯 良平
佐伯 祐三	里見 勝蔵	竹久 夢二
東郷 青児	中川 紀元	中村 研一
藤島 武二	前田 寛治	宮本 三郎
安井曾太郎	吉原 治良	ほか

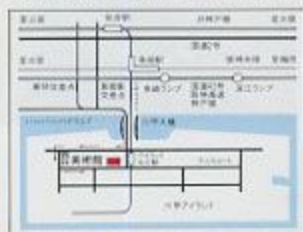


宮本三郎「女達」(1911-1914年) 東京経済美術展

URBAN
RESORT
FAIR
KOBE'93
ALL INFORMATION
SEE THROUGH

神戸市立
小磯記念美術館

〒656 神戸市東灘区南野町中5丁目 TEL.078-857-5883



交通 新交通・西岸ライナー「アイランド」の駅、下車すぐ
(JR西宮駅から4分、阪神東横線駅から5分)



HARUNO

小磯良平「踊り手」1945(昭和20)年

カンヴァスの中の女たち

—洋画100年にみる女性美の展開—

このたび神戸市立小磯記念美術館では「カンヴァスの中の女たち展—洋画100年にみる女性美の展開—」を開催いたします。

移住文化である洋画は、官立の美術教育機関である工部美術学校の設立(1876年)によって、初めて本格的に我が国に導入されました。この工部美術学校でバルビゾン派に近い画風を持つイタリア人教師アントニオ・フォンタネージに学んだ浅井忠らに対し、1893年に帰国した黒田清輝は、印象派風の穏やかな外光描写をフランスより持ち込みました。その後、我が国における洋画は、フォーヴィスム(野獣派)、キュビズム(立体派)など様々な西洋絵画が津波のごとく押し寄せてくる中で、実に多様な展開を示し現在に至っています。

本展では「女性像」という親しみやすいモチーフを通して、1890年代から1990年代にわたる約100年間の、洋画における人物表現のドラマチックな流れを一堂に呈観いたします。小磯良平をはじめとする多くの作家達が好んで描いた「女性像」からは、描き手達の強い情感が伝わってきます。そういう点においても、「女性像」は、自国文化と本質的に異なる異文化を取り入れた我が国の近・現代洋画家達の墓碑の足跡をたどるのにとりわけ適したモチーフの一つと言えます。

そして、目まぐるしい「イゾム」の移り変わりの中で、ほば一貫してアカデミックな写実主義を貫いた小磯良平の画業を、彼が生涯追い求めたテーマである「女性像」を通して紹介いたします。

特別展講演会

「近代洋画の中の女性表現と小磯良平」

10月10日(祝)2時より

講師 島田康寛氏

(京都国立近代美術館主任研究官)

当館2F 絵画学習室にて

入場無料(当日、整理券を発行します。)

定員70名

次回展覧会のお知らせ

収蔵作品展Ⅱ 11月11日(休)▶1月30日(日)

小磯記念美術館収蔵の小磯良平の作品を展示します。

展示室 1・3 油絵 展示室 2 挿絵(原画展(三))「古都」(岡端康成)



文政大文庫「編年」(1875-1876)年 大磯良平画



廿六第二「女」(1891)年 第一編と第二編



近世美術「女」(1927)年 京都国立近代美術館蔵



近世美術「ソフィアを愛した男」(1876)年(1)年 複製(複製)



美術史「聖職」(1876)年 京都国立近代美術館蔵



美術史「女」(1927)年 京都国立近代美術館蔵

入館料	当日	前売	団体
一般	800	700	900
大学生	700	600	700
高校生	500	500	500
小学生	300	200	100

*団体は別名による